

# 雷の子

いかにずちの子

カトリック町田教会  
町田市の中町3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512



<http://www.machida-catholic.jp/>



すると、その時、十二年このかた、出血病を患っている女が後ろから近づいて、イエスの衣の房に触れた。(マタイ9.9-20)

## 「人は変化するものだ！」

主任司祭 アシジの聖フランシスコ 田中 隆弘

町田教会助任司祭時代でしたが、前に言っていたことと違うので、それを指摘すると、主任司祭の酒井神父さんはニコニコ笑いながら「人は変化するものだ！」と言っていました。たしかにそれはそうで、また何か悪い点、不足のある所に気がついたならば、それを早く改めるにこしたことはないと思います。

父さんが、神学生たちを観つづけて「人はなかなか変わらなないものだ！」と言っていました。それは相手が神学生ということがあるのでしようが、これもまた言えていることだと思います。というよりは、こちらの方が言えているのかもしれない。つまり、人というものは元来保守的なものなので、なれた環境からはよほどのことがないかぎり、いまの状態から

脱することはむずかしいのかもしれない。ヘロデ王とエルサレムの人々は東方からの博士たちが来て「お生まれになったユダヤの王は、どこにおられますか？わたしたちは拝みに来ました。」と聞くと「不安になった」とあります(マタイ2:1-3)。その不安は「もしかすると、自分たちがいまの状態から変化しなければならぬかもしれない」という思いによって起きたものではないでしょうか。あるいはまた、それはヘロデ王やエルサレムの人々が現在の延長としての自分たちが

## 神さまに仕え、感謝

運営委員 千種 ジェシカ

二〇〇七年に町田教会へ移籍して大変嬉しく思っています。教会のために尽くされている方々を目にするたび大いに動かされ、私も奉仕したいという思いがこみ上げてきました。折も折、水野さんに生涯養成委員会へ誘われました。日本語の能力を思うと心配になりました。興味をひかれ学びたい気もあり、親しいフィリピン出身の友人にも勧められて共に参加しました。そして委員会のプロジェクトや諸活動に積極的に参加し協力していま

建てた計画、期待していた未来とは違ったものに出会った時とはまじい、ショックなのではないでしょうか。わたしたちの主、イエズス・キリストの現われは確かに当時の人々に、そしてわたしたちにも変化を求めています。それは、イエズスが老人ニコデモに求められた「新しく生まれること」と同じことでしょう。新年にあたり、なかなか変化しないわたしたちですが、主イエス・キリストのうちに改心し変化を恐れることなく、共に歩んで行くことができるように、聖母マリアのとりつぎを願いましょう。

家族にくださった祝福、すべての素晴らしいお恵みに対して、お返しすべき時ではないかと気づきました。それは私の望みではなく、神さまのみに従うことです。

この機会に、お世話になった皆さまに心から感謝を申し上げます。小池神父さま、林神父さま、田中神父さま、四旬節、待降節の黙想指導をしてくださった神父さま方は大変易しく神さまのみ言葉を説き、優しく励ましてくださいました。沢山の素晴らしい思い出を決して忘れません。

生涯養成委員の皆さま、家族のように親しくしてくださったフィリピンの方々、日本の方々には心からお礼を申し上げます。皆さま方は、神さまからの何ものにも代えがたいお恵みであったことを感謝いたします。私は教会に奉仕することから色々学びました。一番大切な教えは「すべてを神さまに任せて尽くす」ことでした。

「主を畏れ、心を尽くし、まことをもって主に仕えなさい。主がいかに偉大なことをあなたたちに示されたかを悟りなさい。」(サムエル上12:24)

町田教会の皆さん、ありがとうございます。

皆さんを愛しています。

# 希望の巡礼者 2025通常聖年について

神学生 アンセルムス・今井克明

聖年は旧約聖書のレビ記25章に記された「ヨベルの年」に基づいています。これは50年ごとに農耕を中断し土地を休ませること、負債の免除、

奴隷の解放などを通して、人びとに解放を伝え、神の恵みといつくしみと義とを明らかにするものでした。教会はそれに倣い、神のいづくしみを表す「免償」を与える聖年を25年ごとに行なっています。

このような話はよく聞きますが、「免償」がどんなものか、実は私もよくわかっていませんでした。この機会に調べてみたので、一つ例え話でお話しします。

子どものころ些細なことで言い合いになり、親と喧嘩しました。少し時間が経ちだんだんと冷静になつてくると、自分も悪かったところがあつたと反省するようになりまし。しかし喧嘩になつてしまつた以上、簡単に引き下がる事ができません。それに「相手はまだすぐ怒つてくれるかもしれない」「謝つても許してくれないかもしれない」と思つてなかなか声をかけることができなくなつてしまひました。そうして親とい

最終的に部屋に閉じこもつてしまひました。

この時重要なのは、親はもうすでに許しているかもしれないのに、親の気持ちを勝手に想像して、自分から離れていつてしまふということ。私たちは罪を犯したとき、この子どものように考え、自分で神から離れていつてしまふことがあります。だからこそ教会は聖年によって「神のゆるしがすであること（免償）」を伝えます。しかしこの「神のゆるしがすであること」は先ほどの例えで言うなら、「まず親に近づいてきちんと謝ること」なしには決して知ることができません。教会の言葉で言うなら自分の罪を見つめ、回心し「ゆるしの秘跡を受けること」、そして「聖体として私たちのもとに來られる主に近づき「聖体を拝領すること」です。（免償）を受けるには他にも条件があります（そのようにして初めて、当然負うべき自らの罪に対する罰が神の恵みといづくしみと義によって免除されるという神の愛の喜びを受け取ることができるようになります。

そしてこの神による愛のま

希望とは神から来る力

## 伝染 教皇フランシスコのメッセージ

カトリック中央協議会 (イラストルポ・池永廣義)

### 「神から再出発しよう、教皇、聖年の巡礼者への謁見で！」

2025年のテーマ 「希望の巡礼者」から 新たな始まり(神から新たにスタート)

いろいろな角度から講話をスタート!

「真福八端」(マタイ 5:3-12)

☆神の国に対抗する「ヘロデ」たちが いまだに多くいる!

しかしイエスは福音の驚くべき掟である「真福八端」という新しい道を示してください! 彼から再び信じるということを学ぼう!

搾取され(しぼりとられ) 地球 傷ついた 共に暮らす家 すべて人間

人間にとっての希望は神が言われる 違いの中にある。イエスの中に輝き、わたしたちに奉仕と兄弟愛を求め自分たちの小ささを認めさせる。この神の独創性から再び出発。そして小さき人々を見つめ、彼らに耳を傾け、彼らの声となろう!

すべての希望はこの飛躍の中にある

神の国にかかっている

受け入れる

誰が偉大か!?

新しい秩序が生まれる

世界 これこそ、みんなが必要としていること。

これが新たな始まり、わたしたちの聖年なのです

神

イエス

ヨハネ

ヘロデ王

教皇 フランシスコ

なごしの中で生きようとする  
ことができること、言い換え  
ればキリストと共に生きよう  
とすることができるところそ  
が、私たちの希望ではないで  
しょうか。それは神からの神  
のまなざしですから、決して  
陰ることはありません。私た  
ちは日々キリストに力づけら  
れてキリストと共にキリスト  
のうちに、神と真に出会うそ  
の日まで人生という巡礼道  
を歩み続けています。

2025年の通常聖年を  
「希望の巡礼  
者」として共  
に歩んで行け  
るように聖靈  
の助けを祈り  
ましょう。



カトリック喜界島教会 ②

鹿児島司教区終身助祭  
四條 淳也

前回は、喜界島出身の瀧憲  
志神父さんのお姉さんであ  
るおばあについて触れました。  
彼女は神父さんが子どものこ  
ろから、母親代わりになり、  
神父さんが叙階されるまで一  
所懸命に育てられました。晩  
年は娘さんと一緒に住まわれ  
一〇一歳の天寿を全うしまし  
た。他にも思い出に残る信徒  
さんが沢山おられます。  
島での生活は、主日以外は  
各集落を回り、フィリピン人

で島の男性と結婚している家  
庭を訪問し、子どもたちの洗  
礼・初聖体・堅信の状況を調  
べて適切な対応を取ります。

その他、島の隣近所との付  
き合い、町内会への参加、夏  
祭りや青年団の集会などに参  
加するなど、島の人たちと親  
睦を深めてカトリック教会の  
ことを少しずつ知らせていき  
ました。少数ではありません  
が、「キリスト教にだけは入  
るな」と頑なに拒む方がいま  
した。原因はものみの塔が執  
拗に勧誘するので、キリスト  
と聞いただけでカトリックも  
同じだと感じていたようです。  
丁寧の違いを説明しても聞い  
て貰えませんでした。

そのような状況なので、直  
接宣教するのはなく、青年  
団集会、夏祭り、海岸の清掃  
作業、スキューバダイビング  
への参加、バザー、図書館で  
の読み聞かせ、病人訪問、福  
祉施設訪問など、島の人たち  
と出来るだけ多く接する機会  
を多くすることにしました。

その結果若い父親と娘さん  
が洗礼を受けたと言われ、  
入門講座を開き、無事に親子  
揃ってある年の降誕祭に洗礼  
を授けることが出来ました。  
洗礼当日、急用で司祭の来島  
が不可能になり、急遽私が親  
子に洗礼を授けることになり  
ました。堅信は後日司教様を

呼んで厳かに行われました。  
現在は、復活祭、降誕祭の  
頃教会へ司牧に出かけており  
ます。

皆様も是非一度は、南海の  
孤島にある小さな喜界島教会  
へ来てください。バス停のよ  
うな小さな空港、見渡す限り  
のサトウキビ畑、紺碧の空、  
頭上一面の夕焼け、降るよう  
な星空、エメラルドグリーン  
の海に戯れる熱帯魚、天地創  
造を思わせるように今も隆起  
している島の大地に聖コルベ  
に捧げられた、小さな聖堂で  
都会の喧騒から逃れ、ゆっく  
り黙想会を開いたらいかがで  
しょうか。

ルルドをめぐる

一二つの奇跡 ①

中原 毅志

私のように信仰薄き者に奇  
跡など起こるはずもなく、こ  
のタイトルはわれながら誇大  
表示というほかありません。  
ここにお話しするのは、「奇  
跡のようない」とでもいうべき  
出来事です。ただ、それがル  
ルド巡礼の行き帰りに起きた  
のなかでは奇跡として刻印さ  
れてしまったのです。

私が家族連れのルルド巡礼  
を思い立ち、日本を発つたの  
は35年以上も前のことです。

今日ではパリからTGV  
(高速鉄道)や飛行機の便も  
あるようですが、当時はパリ  
のオステルリツツ駅から夜行  
列車に乗って翌朝ルルド駅に  
着くというのが、家族連れの  
旅にはいっばん無難な行程で  
した。

妻と幼い娘二人を連れての  
旅なので、安全を期して一等  
車のコンパートメントを予約  
しました。ところが当日の夜  
列車の乗降口のデッキで私  
たちを迎えてくれたのは、大き  
な荷物を抱えて床にたむろす  
る北アフリカ移民の若者たち  
でした。彼らは夏休みのあい  
だにこうしてフランスを南下



ワンポイント聖書 温故知新

⑥

余生風 佐藤 正明

回心 METANOIA (メタノイア)

主イエス様の宣教第一声は、「悔い改  
めよ。神の国は近づいた」(マタイ4:  
17) だった。回心とは「悔い改めよ」  
METANOIA (メタノイア) 考え直せ、  
改心せよ等の意」というギリシャ語の名詞  
で、改心とも書かれる。四旬節も近いので  
今回はそれを一考しよう。

人は進歩を連続で考えがちだ。確かに体  
や知性の進歩は、今日よりは明日、今年よ  
りは来年という風に、連続する習得と積み  
重ねの先にある。断絶は進歩の逆、破棄だ。  
ところが、心はむしろ断絶によって進歩、  
変転する特性がある。読者もお気づきだろ  
うが、良くも悪くも、「人が変わった」と  
言われる場合がそれだ。その人がそれまで

の考え、気持ち等を否定し、それと断絶す  
るからだ。

では回心は？と言うと、良い方への断絶  
に他ならない。心を罪の対象から神の方へ  
と180度回転させ、悪を否定、罪と絶縁する  
ことにある。だから回心と言う。罪の状態  
から恵みの状態への飛躍進展、大変貌である。  
放蕩息子のたとえはそれを見事に物語  
る。窮した彼は「我に返って」(ルカ15:  
17)、父のいる故郷に帰る。ヘブライ語で  
は *SHUB* (シブブー…帰れ) が「悔い改め  
よ」の意味なのだ。それは迷い出た子の回  
心が、天の父にとつてどれほど大きな喜び  
かをわからせてくれる。そして、回心した  
人は知る、赦しをいただいた心がどれほど  
安らかになるかを。

し、地中海を渡って故郷に帰るのです。事情を知っている私に驚きはなかったものの、妻や娘たちは父親が自慢げに語っていた一等車の旅とは違いぶようすが違うことに気づいたはずで。

夜中、トイレに行きたいという長女を伴って部屋を出たときの事です。乗降デッキの若者たちをよけながらトイレに入ったまではよかったのですが、用を終えて出ようとドアを開けると、目の前にその若者たちが立ちはだかっていたのです。異様な雰囲気でした。一人が私と娘を押し返すように立ちふさがり「気をつけろ！」と叫びました。その必死の形相を見るまでもなく、おおよその状況はすぐわかりました。理由は不明ながら、突然開いてしまった乗降ドアから凄まじい鉄路の音とともに猛烈な外気が流れこみ、狭いデッキの上は立っているのがやっとという状況だったからです。不用意にトイレから出ていたら、あつてなく外に投げ出されてしまったかも知れません。特に、小さな娘はひとまりもなかったでしょう。危険を察知した若者たちは、自分たちが退避するより先にトイレのドアの前に立って、何も知らずに出てくる巡礼者親子を待ち受け

る方を選んだのでした。風圧に耐えて戸口に立つ屈強な二人の若者に守られて、私たちが親子は無事生還することができました。  
「きみたちはどうするんだ？」  
別れ際に尋ねると、若き善きサマリア人は答えました。「仲間が車掌呼びに行っている。来たら移動するよ」  
【予定の記事が間に合わなかったため、編集子書き下ろした埋め章です。ご了承ください】

編集後記

今号の巻頭を飾る口絵は「雷の子」に加わった新戦力、赤池圭一郎さんによるものです。

中高生会クリスマス会 (24年12月29日)



土曜学校クリスマスお泊り会 (24年12月14～15日)



インターナショナルグループのクリスマスパーティ (参加者は約80名)



ヨゼフ会新年会 2月2日

信者動静

2024年11月～2025年1月

(個人情報のため、削除しています)